

令和6年度 5歳児 「たき火」

(令和6年度実践前修正箇所を斜体、
実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 11月～12月

2. 設定の理由

年長児は、3歳4歳の間に、年長児がたき火をして焼いてくれた焼き芋を届けてもらって食べた経験がある。また、たき火をする1ヶ月程度の間、年長児がたき火の準備をしている様子を登降園の途中や遊んでいる時に目にしている。さらに、たき火をしている最中には、興味のある子どものみならず、各クラスの担任と一緒にたき火の傍に来て、たき火を見たり、たき火にあたりする経験もしている。

このような経験をしてきているため、年長になると自分達がたき火をして、年少児や年中児に焼き芋を焼いてあげるのだという気持ちをもっている子どもも多い。そのような気持ちがない子どもも、落ち葉を集めてその感触を楽しんだり、園庭の樹木を剪定することで出てきた木の枝を薪にちょうどよい大きさにのこぎりで切りそろえたりすることを遊びの一つとして経験していく中で、落ち葉をどうするのか、切った木をどうするのかなど、自然と話題になり、たき火へと気持ちが向かっていくようになる。

また、年中児に育てたサツマイモを焼いてほしいと頼まれることで、芋を美味しく焼いてあげたいという気持ちになっている。

ちょうど、この頃年長の生活の中に、年少児や年中児を招待して開く「お店屋さんごっこ」に向けての取組が始まっている。この取組を通して、年長児は年少児や年中児が喜ぶことをしてあげたいという気持ちを持ち始めている。気温も低くなり、たき火で暖をとる必然性もできてくる頃、具体的にたき火の話を教師から持ちかけると、子ども達は年長児としての自覚とたき火への興味期待から、自分達がたき火をして焼き芋を焼いてあげることへの意欲をもっている子どもがほとんどである。

このような年長児としての自覚をもち、友達と気持ちを合わせて準備をしたり、自分達の役割を果たそうとしたりする経験を大切に、さらには自分達の役割を果たす充実感も感じさせたい。また、たき火という活動から、火や煙に関する体験をすると同時に、それらと安全に関わる上で気を付けなければならないことを考えることもできる。

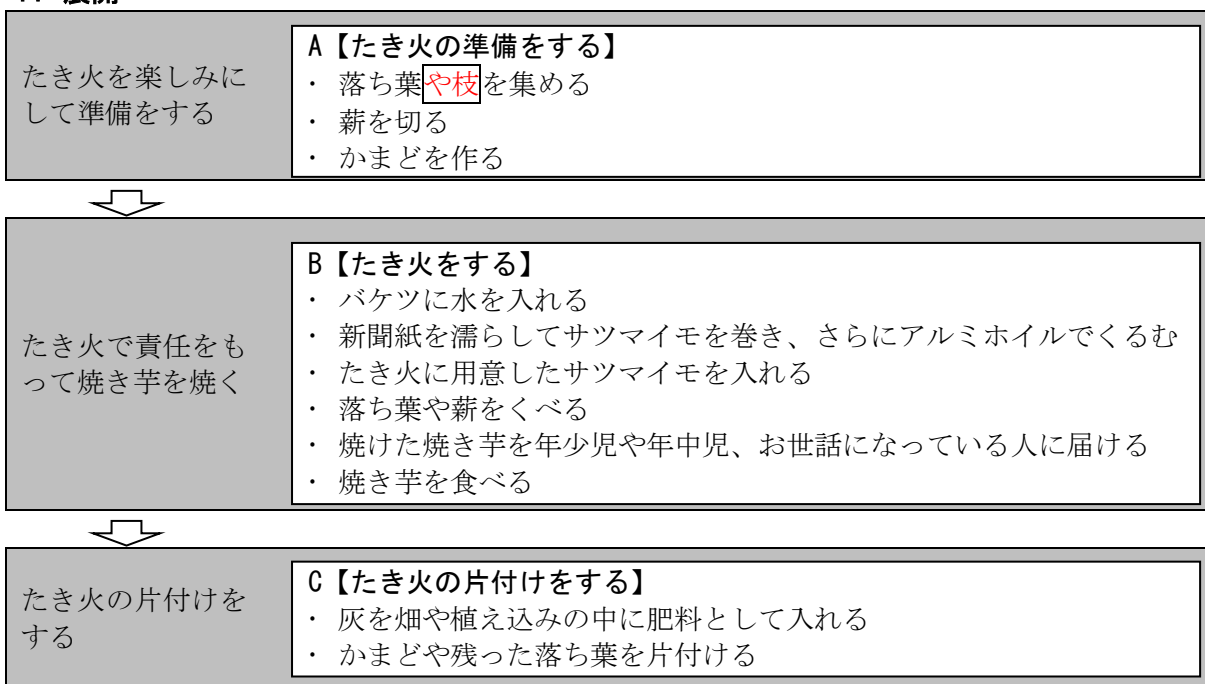
年長後半のこの時期に必要な経験の積み重ねができるように、できる限り子ども達一人一人が責任をもって自分達でたき火をして焼き芋を焼き上げられるような活動にしていきたい。そのため、子ども達が大量でたき火に関わるのではなく、一回のたき火に関わる子どもの人数をできるだけ少人数にする必要がある。一方で「お店屋さんごっこ」の取組も行っている時期であるため、「お店屋さんごっこ」で同じお店をしている友達によってグループ分けを行うことにする。このことにより、一人一人が責任をもってたき火をするための必要性から少人数にしたい教師の意図と、「お店屋さんごっこ」の準備のためにグループで生活のリズムを作っている子どもの必要性とをかみ合わせることができる。

また、安全確保と、保護者の子どもの発達や幼児教育への理解を期待して行う「保護者の保育参加」とも関連付け、本活動の意図を十分保護者に伝えた上で、保護者の協力も得て行う取組にしていきたい。

3. ねらい

- | | |
|---|--|
| ① たき火をすることを楽しみにしたり、美味しい焼き芋を作りたいと思ったりして準備や当番を友達と一緒にやり切ろうとしたり、のこぎりで木を切りたいと思って切れるまで粘り強く取り組んだりしようとする。 | 自ら決める・選ぶ |
| ② 苦労しながらも友達と力を合わせてたき火をし、焼き芋を焼き上げたことや、焼き芋を届けた年少・年中の友達、日頃お世話になっている方々に喜んでもらったことに満足感を味わう。 | 自分に満足する |
| ③ たき火のことから気持ちが離れて遊具で遊んだり、危険を考えずに火で遊んだりしたい気持ちに「 を切り替えて折り合いをつけて 」、自分がしようと思っていたことや役割を思い出してそれに向かおうとする。 | 気持ちをコントロールする |
| ④ 自分の言動を振り返ったり、友達や教師、保護者の方に知らせてもらった
りして、自分の頑張りを感じたり、自分の言動を自覚して向き合おうとし
たりする。 | 自分のことを知る |
| ⑤ たき火当番の友達と一緒にたき火をする楽しさを感じたり、年少・年中の友達や日頃お世話になっている人に焼き芋を届け、喜んでくれる様子を見て嬉しく思う。 | 他者という喜びを感じる |
| ⑥ たき火当番の友達と一緒に、おいしい焼き芋を焼こうという気持ちを持ち、火に入れる前の芋の準備や火の見張り番など、必要な役割を知ったり、考えたり、自分ができることをしようとしたりして、たき火当番と一緒にする友達と声を掛け合いながら、自分達の責任を果たそうとする。 | 人と物事を進める |
| ⑦ のこぎりで木を切る時の腕の動かし方や力加減、リズムを考えたり、 試 したりしてコツを感じる。 | 身体を操作する |
| ⑧ 振り回したり、 刃 が動く傍を手で押さえたりしない、刃を出した状態で置かないなどののこぎりの扱い方や1個ずつ丁寧に運ぶなどのレンガの運び方、防火用の水の準備、火の向きや勢いを確かめて少しずつ入れるなどの火の中への芋や薪、落ち葉の入れ方など、どうすると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないようにしようとする。 | 身を守る |
| ⑨ 火の暖かさや、煙の煙たさ、 匂 いなどを感じたり、落ち葉や薪が燃える様子や、 扇 いだら火がよく燃える様子を見て、その変化を捉えて驚いたり、理由を考えたり、試したりしようとする。 | 事物・現象を捉える |
| ⑩ 引きながら切るのこぎりの特性や燃えないが熱を通すアルミホイルの特性、乾いているとすぐ燃える新聞紙の特性、 太い木を焼くと炭になる特性 を知ったり、感じたり、試したりしようとする。 | 事物・現象を捉える |
| ⑪ 焦げないように 濡れた 新聞紙やアルミホイルを巻いたり、焼き加減を確かめたりして焼き芋を焼き、焼きあがった焼き芋の香りや味、食感の柔らかさを楽しんだり、おいしい焼き芋を友達と一緒に食べることを楽しんだりする。 | 食を見つめる |
| ⑫ たき火の準備やたき火、片付けを通して、落ち葉や木の枝が、食べ物を焼いたり、植木や野菜の栄養に使えたりすることを感じる。 | 資源の活用を見つめる |

4. 展開



A【たき火の準備をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・ 落ち葉や枝を集める ・ 薪を切る ・ かまどを作る	○たき火を楽しみに準備しようとする。① ○たき火の準備を通して、落ち葉や木の枝が、食べ物を焼くことに使えることを感じる。⑪⑫ ○振り回したり、刃が動く傍を手で押さえない、刃を出した状態で置かないなどののこぎりの扱い方や1個ずつ丁寧に運ぶなどのレンガの運び方など、どう	*園庭の落ち葉や枝を集めることを遊びの中で楽しんでできるように、落ち葉や枝をそのままにしておき、子どもが扱える大きさの熊手を用意しておく。 *薪の準備を遊びの中で楽しんでできるように、子どもが切れる太さの枝を選んで置いておく。また、のこぎりの置き場所を決めて置いておく。 ◎たき火を楽しみに必要な準備をしようとするように、年中児が掘った芋をどうしてあげたいか一緒に考えたり、落ち葉がたくさん落ちた際に集めながらたき火をしたいか尋ねたり、去年の年長にしてもらったことを振り返ったり、するのであれば準備が必要であることを伝えたりする。 ◎落ち葉や木の枝をたき火に使うことを意識しながら落ち葉を集めたり薪を切ったりしようと思えるように、たき火をするのであれば落ち葉や木の枝が必要なことを知らせたり、教師がやって見せたりする。 ◎安全に薪作りをすることができるように、振り回したり刃が動く傍を手で押さえない、刃が出たままだと誤って触れる危険があることなどののこぎりの扱い方を伝え、それらに気を付けて使っているかよく見ておく。 ◎かまど作りでレンガを丁寧に運べるように、たくさん持っていて足の上に落としたり、こけて手をはさんだりすると骨が折れるぐらい危険であるこ

	すると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないようにしようとする。⑦ ⑧ ○のこぎりで木を切る時の腕の動かし方や力加減、リズムを考えたり、試したりしてコツを感じる。⑥ ⑦ ○引く時に切れるのこぎりの特性を知ったり、感じたり、試したりする。⑨⑩	とを伝えたり、レンガを取りにいく人とレンガを持ってくる人の動線を一緒に考えたり、1 個ずつ歩いて運んでいるかよく見ておく。 ○のこぎりで木を切るコツが感じられるように、教師がコツを言葉にしながらやって見せたり、必要に応じて手を添えたり、まっすぐ動かすことや、引く時に力を少し入れるが力を入れすぎないことなどを伝え、繰り返し試せるように、1 ヶ月程度の期間は準備のための期間として確保しておく。 ○のこぎりの特性を感じたり試したりしようと思えるように、のこぎりはどうやって切れていくのか一緒に見たり、尋ねたり、試してみてもう良かったか尋ねたりする。
--	--	--

B【たき火をする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・ バケツに水を入れる	○焚き火をすることを楽しみにしたり、美味しい焼き芋を作りたいと思ったりして準備や当番をしようとする。① ○防火用の水の準備をし、燃え移ってもすぐに消せるようにしようとする。⑦⑧	○当番になって、たき火をすることを楽しみにしたり、美味しい焼き芋を作りたいと思ったりして準備や当番の役割に向かえるように、当番表を貼っておいたり、楽しみである気持ちに共感したりする。 *積極的にたき火に関わったり焼き加減を触って確かめたりするように、子ども用の軍手を用意しておく。 *防火用の水を自分達で準備しようと思えるように、砂場のバケツをいつもの場所にかけておく。 ◎防火用の水を準備しようと思えるように、火の粉が飛んで、近くの落ち葉や木の枝に燃え移った時にすぐに火を消すための水が必要であることを伝えたり、まだ水が準備できていないことを知らせたりする。
・ 新聞紙を濡らしてサツマイモを巻き、さらにアルミホイルでくるむ ・ たき火に用意したサツマイモを入れる ・ 落ち葉や薪をくべる	○たき火当番の友達と一緒にたき火をする楽しさを感じる。④ ⑤ ○おいしい焼き芋を友達と一緒に食べることを楽しもうと、焦げないように濡れらした新聞紙やアルミホイルを巻いたり、焼き加減を確かめたりして焼き芋を焼く。⑩⑪ ○たき火当番の友達と一緒に、おいしい焼	◎たき火当番の友達と一緒にたき火をする楽しさを感じられるように、当番の仲間が誰であるか一緒に確かめたり、仲間と一緒にするたき火の楽しさを言葉にしたりする。 ◎焼き芋がおいしく焦げずに焼き上がるように、濡らした新聞紙で巻くこと、火が入ることを防ぐために新聞紙が見えないようにアルミホイルでくるみ、木の枝があたってもアルミホイルが破けないように固く包んでおくことを知らせる。 *自分ができることをしようと思えるように、また、子ども達が自分達で一緒にたき火を担当する友達

き芋を焼いてあげようという気持ちを持ち、自分ができることをしようとする。

⑤⑥

○火に入れる前の芋の準備や火の見張り番など、必要な役割を知ったり考えたりし、たき火当番と一緒にする友達と声を掛け合いながら、自分達の責任を果たそうとする。⑤⑥

○友達と一緒にたき火をやり切ろうと当番であることを意識して役割を果たそうとする。①

○たき火のことから気持ちが離れて遊具で遊んだり、危険を考えずに火で遊んだりしたい気持ちに折り合いをつけて、自分がしようと思っていたことや役割を思い出してそれに向かおうとする。③

○自分の言動を振り返ったり、友達や教師、保護者の方に知らせてもらったりして、自分の頑張りを感じたり、自分の言動を自覚して向き合おうとしたりする。④

○火の向きや勢いを確かめて少しずつ入れるなどの火の中への芋や薪、落ち葉の入れ方を、どうすると危なくなるか聞いたり考えたりし、危なくないようしようとする。⑦⑧

が把握できるように、1回あたりのたき火を担当する子どもの人数を8人程度までになるように調整する。

○自分達で声を掛け合ってたき火をしようと思えることができるように、火が消えそうになっていることを知らせたり、たき火から気が逸れている友達がいることなどを知らせたり、自分から声をかけている姿の皆で進める上でのよさを言葉にしたりする。

○自分達で責任をもってたき火をしようと思えるように、できるだけ手を出さず、子どもにできることは全て任せる。

○自分達で役割を分担したり見通しをもって動いたりできるように、どんなことが必要か、たき火の流れや行くことを知らせる。

○友達と一緒にたき火をやり切ろうとするように、待っているクラスの楽しみにしている気持ちを伝えたり、焼き上がりが近付いていることを伝えたりする。

○他のことに逸れた気持ちを切り替えられるに折り合いをつけられるように、たき火から気持ちが逸れている子どもには、周りの友達がどう思っているのかを聞く機会を設けたり、自分がしたいと思っていたことを尋ねて思い出すきっかけを作ったりする。

○自分の頑張りを感じたり自分の言動を自覚して向き合おうとしたりするように、芋が焼きあがるまでの過程やその頑張りを言葉にしたり、自分の言動が周りの人からどう見えているか知らせたり、そのことについてどう思うか尋ねたりする。

○安全な火への関わり方や準備に向けて考えられるように、たき火の当番でなくても火の粉が飛んでくることがあることや髪の毛が長いと屈んだ時に火がつきそうなことなどを知らせる。

○火への接し方が雑な時には、火への関わり方を考えられるように危険であることを知らせて止めたり、そのまま続けているとどうなるか尋ねたり、教えたりする。

○安全な火への関わり方や準備に向けて、考えたり

・ 焼けた焼き芋を年少児や年中児、お世話になっている人に届ける ・ 焼き芋を食べる	○火の暖かさや、煙の煙たさや匂いなどを感じたり、落ち葉や薪が燃える様子や、扇いだら火がよく燃える様子を見て、その変化をとらえて驚いたり、理由を考えたり、試したりする。 ⑧⑨ ○燃えないが熱を通すアルミホイルの特性や乾いているとすぐ燃える新聞紙の特性、太い木を焼くと炭になる特性を知ったり、感じたり、試したりする。⑨⑩ ○うめ組、もも組の友達や日頃お世話になっている人に焼き芋を届け、喜んでくれる様子を見て嬉しく思う。④⑤ ○苦労しながらも友達と力を合わせてたき火をし、焼き芋を焼き上げたことや、うめ組やもも組の友達に喜んでもらったことに満足感を味わう。② ○焼きあがった焼き芋の香りや味、食感の柔らかさを楽しんだり、おいしい焼き芋を友達と一緒に食べることを楽しんだり	実際にやってみようとしたりするように、危険になると予想されるポイントを抑えて、危険な状況を説明したり、危険な状況にならないようにするための方法を尋ねて考えるきっかけを与えたり、考えたことをやって見せて確かめたり、実際にしている姿からよく考えていることを言葉にしたり他児に紹介したりする。 ◎火の暖かさや煙の煙たさ、匂いなどを感じられるように、危なくない範囲で火に近づく提案をしたり、手を出さないでできるだけ子ども自身が火に関わることができるようにすると共に、子どもが感じたことに共感したり、他児にも言葉で伝えたりする。 ◎薪が燃える様子や、扇いだら火がよく燃える様子など、火に関わる様子やその変化に気付いたり、その理由を考えたりできるように、変化に気付いている子どもの気付きを一緒に見て驚いたり、他児に伝えたり、その理由を一緒に考えたり、教師も不思議に思う気持ちを伝えたりする。 ◎アルミホイルや新聞紙、太い木の特性を知ったり、感じたり、試したりしようと思えるように、アルミホイルや新聞紙の燃え方や熱の伝わり方に注目したり、どう違うか尋ねたり木の様子がどう変化しているか一緒に見たりする。 ◎人に喜んでもらう嬉しさを感じられるように、他のクラスや日頃お世話になっている人の分も焼くかどうか尋ね、焼き上がった芋を自分達で届ける場を設定する。 ◎苦労しながらも友達と力を合わせてたき火をし、焼き芋を焼き上げた喜びを感じられるように、頑張ったことや大変だったことを尋ねたり、それを乗り越えたおかげでおいしい芋が焼けたことを言葉にしたりする。 ◎うめ組やもも組の友達に喜んでもらった満足感を感じられるように、届けた子ども達にうめ組やもも組の友達がどんな様子だったかや何と言っていたかを尋ねたり、教師が見取った様子や言葉を知らせたりする。 ◎焼き芋の香りや味、食感の柔らかさを楽しめるように、焼き芋の匂いを嗅ぐ姿を見せたり、味や食感について尋ねたり、匂いや味、食感に感動している姿を他児に知らせたりする。 ◎友達と一緒に分け合って食べる楽しさが味わえるように、グループに1個、1.5個などの渡し方を
---	--	---

	する。 ⑩⑪	し、グループの友達と自分達で分ける場を設定する。そして、食べながら焼け具合や味などで感じた気持ちを受けとめて楽しく食べる雰囲気を作る。
--	--	---

C【たき火の片付けをする】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
・ 灰を畑や植え込みの中に肥料として入れる ・ かまどや残った落ち葉を片付ける	○ 落ち葉や木の枝を焼いた灰が、植木や野菜の栄養に使えることを感じる⑪⑫ ○ 1 個ずつ丁寧に運ぶなどのかまどの片付け方を、どうすると危なくなるかを聞いたり考えたりし、危なくないようにしようとする⑦ ⑧	* 必要な道具を取りに行けるように、使いそうな砂場のバケツやスcoopなどをいつもの場所に置いておく。 ◎ 灰が木や野菜の栄養になることを感じられるように、栄養になることを知らせ、栄養をあげたいと考えて灰を撒く子どもの気持ちを受けとめ、考えていることを他の子どもにも知らせる。 ◎ 野菜が大きくなる、ツツジの花がきれいにたくさん咲く、どんぐりが実るなどの期待をもって灰を撒けるように、自分達のしたことがどうなっているのかを具体的に言葉にして伝えていく。 ◎ かまどの片付けでレンガを丁寧に運べるように、準備と同様に、たくさん持っていて足の上に落としたり、こけて手をはさんだりすると骨が折れるぐらい危険であることを伝え、1 個ずつ運んでいるかよく見ておき、危なくないように運んでいる子どもを知らせたりそうすることのよさを言葉にしたりする。